



社員とその家族を対象に健康講座を開催し、「玄米酵素」を無償提供。社員の健康が業績の向上を生んだ!

京都駅からおよそ10キロ南へ向かうと名水の郷・伏見に至る。ここは灘と並ぶ日本酒の名産地で、現在でも20余の酒蔵が銘酒造りに励んでいる。ここに降り立ち、広い空を見上げると縦横に走る高速道路が目に見え込んでくる。大きなインターチェンジは現代の象徴と言って過言ではないだろう。そう、ここは日本有数の酒の郷であると同時に関西エリアにおける一大物流基地なのだ。その一角にフジモト運輸株式会社がある。そこで実践されている健康重視経営とは?

■異温度帯配送とは?

フジモト運輸株式会社はホームページを開くとまず「異温度帯共同配送のプロフェッショナル」とある。異温度帯とは聞きなれない言葉だが、これは「冷凍・超冷凍・チルド・常温」という異なる保管温度帯の商材を1台のトラック(冷凍車)で配送することだ。

昭和48年、小野社長(79歳)が美佐子夫人(76歳)の実家の運送業を継いだ頃、商材は水と一緒にシートで覆われた状態で配送されていた。「これでは鮮度と品質が



取材中も笑顔の絶えない小野社長(左)と美佐子夫人(中)、山本奈美さん

一、立派な日本人になること。
二、世の中とお客様にとって無くてはならない企業になること。
三、全員経営で実践し、豊かな人生を目指すこと、である。
この理念のもと、小野社

■ドライバーファースト!

そんなフジモト運輸の経営理念は、



フジモト運輸株式会社外観

長は安定し、働きがいの企業経営を目指す。

まず、月に1回はドライバー講習を行い、安全とエコーを徹底する。出勤と退社時にはアルコール検査を行い、安全へ万全の配慮をする。さらに、社員のモチベーションを喚起する工夫がもうひとつある。それは給料袋に入れられた会社の経営状況を伝えるメッセージだ。企業秘密とも言える内容だが、全員経営の方針のもと、小野社長は隠すことなく状況を伝える。こう

■社員に「玄米酵素」!

新しい事業を始めた当時、小野社長は経営勉強会にも足繁く通い、ある時、玄米酵素の代理店でもある岩手県在住の経営者と知り合った。勧められた「玄米酵素」を試すと体調はいい。一緒に試した美佐子夫人にも良い結果が得られた。「これは本物だ」と確信した小野社長はすぐに特約店契約をし、社員とともに健康を目指そう!と健康講座を開始したのだ。

講師には玄米酵素の社員を招き、対象は40歳以上の



健康講座は年間2回開催される

フジモト運輸株式会社 代表取締役社長 小野光治さん

「玄米酵素」にも目覚めたという奈美さんは今、フジモト運輸の後継者目指して猛勉強中だ。

■不動明王
小野社長に健康法を尋ねると「何もしとらん」と言うがご家族からは「神社仏閣巡り」の声。「ある正月、家族で太神山をハイキングし、山頂の不動寺を参拝した後、仕事が舞い込み始めた」のだそうだ。不動明王との縁を感じてその後、近畿三十六不動尊詣でを開

する。健康重視経営とは? 保てない」と小野社長は冷凍車を改造、4つの温度帯の商材の同時配送を可能にした。この対応が依頼主の信頼を獲得、業績は順調に拡大、現在、フジモト運輸は100余台の冷凍車を保有し、150名を越えるドライバーを抱えるまでになった。さらに、全ての車両が出払う昼間にはアイスクリームの個別梱包なども請け負い、会社はまさに365日24時間体制で動いている。



▲巡った記録はアルバムで大切に保管してある
◀三十六不動尊巡りを満願し、その記録は素晴らしい掛け軸になっていた



始、13年かけて満願した。その間に近畿百五十寺社巡拝という行の存在を知り、現在は時間を見つけては参拝している。同行した奈美さんは「寺社は山頂にあることが多く、社長は車を麓に置いてサッサと歩くんです。私は車の中で待つことに決めました」と笑うが、寺社巡りは社長の健脚をさらに鍛えているようだ。

無くてはならない企業を目指して
目標は?と尋ねると「基盤の強化」と明快だ。「適正な資産を形成し、総合物流センターを設けたい。そして地域でトップクラスの企業になって、地域に無くてはならない企業になる」と言う。

フジモト運輸の定年は65歳だが、実は、「ない」。健康であればいつまでも働いてもらいたいと思っている」ので多くの社員は70歳まで働き、現在、73歳の社員もいると言う。

すでにしっかりと地域に溶け込み、住民に信頼される企業になっているフジモト運輸。小野社長の夢が実現する日は遠くない!